

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL

55

2019

今年もまごころのこもった診療を

DOCTOR'S VOICE 01 前向きな気持ちで治療を継続していけるよう、スタッフ全員でサポート

DOCTOR'S VOICE 02 研究を進め、社会に還元できる何かを発見したい

DOCTOR'S VOICE 03 魅力的な高度医療と先進的な研究から実力のある人材育成を



仕事始め式

— 平成31年初春 —

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

当院は引き続き地域に密着した病院として、スタッフ一同こころのこもった医療・サービスを提供する所存です。

本年もご支援の程宜しくお願い申し上げます。

愛媛大学医学部附属病院長 三浦 裕正



外来化学療法室の特徴は どんなところでしょうか。

済川 ● 医師だけでなく、看護師・薬剤師・栄養士・臨床心理士といった多職種が連携しています。毎朝、患者さんについてミーティングを行い、スタッフ間の意思疎通を徹底しています。各診療科の主治医にも、治療方針や副作用などの情報についてフィードバックし、よりよい化学療法を目指しています。また、化学療法室では、ベッドごとにカーテンをつけることでプライバシーを確保。放射線状にベッドを並べ、中央にスタッフがいることで、スタッフからも患者さんの容態がすぐにわかりますし、患者さんもスタッフに声をかけやすい環境になっています。

不安も多い患者さんのため、 大切にしていることは何でしょうか。

森 ● 患者さんの多くは副作用や合併症で不安に思っています。入院中は気になる症状が出た時に医師や看護師へ伝えることができるのですが、外来治療ではそれが難しいため不安に感じているようです。そ

のため、外来治療時に自宅での生活の様子を聞き、患者さん自身が身体の状態に気づけるよう副作用に関する説明を繰り返し行っています。また、退院後は仕事復帰する患者さんも多く、生活状況に合わせて実践可能なセルフケア方法を提案するように心がけています。そして日常生活を少しずつ取り戻していく中で、症状のコントロールができるようになることを一緒に喜ぶという積み重ねを大切に、実践しています。

患者さんの反応や声には どういったことがありますか。

永井 ● 免疫力を上げたい、感染予防の食事について知りたいといった声が多く聞かれます。入院中であればスタッフがすぐに対応できますが、自宅では自らに委ねられ不安も強いものと思われれます。しかし、外来で治療を行うことにより慣れた味付けや料理を口にすることができ、好きな物を好きな時に食べられるといった自由度があります。それらに食事と栄養に関する知識を組み合わせることができれば、自由度を持ちつつ入院中と変わりのない栄養療法

を行うことができます。食べられない原因や不安感を共有し、個々にあった調理法や、その工夫、食欲不振時の栄養補助食品の活用など、患者さんの視点に立った治療と生活の支援に務めています。

紙面を通じて患者さんに 伝えたいことをお願いします。

竹内 ● 外来化学療法室では、退院前にオリエンテーションを行います。わからないこと・知りたいこと・不安なことがあれば何でも、どんどん訊いていただければ、外来化学療法室や各診療科で対応します。患者さん以外の方でも総合診療サポートセンターなどに相談していただければ、その情報は私たちにも届きますので、一緒に考えていきたいと思っています。気になることはぜひ相談してください。

当院では患者さんが前向きな気持ちで治療を継続していけるよう、チームでサポートします。患者さんが安心して治療と向き合うこと、治療を続けながら生活を送れることを大事にし、よりよい医療・看護を提供していきたいと考えています。



PROFILE

たけうちかずと◎大阪市出身。1996年愛媛大学医学部卒業、2003年愛媛大学大学院医学系研究科博士課程修了(医学博士)。宇和島社会保険病院(現JCHO宇和島病院)内科医長、愛媛県立中央病院血液腫瘍内科部長を経て2014年より現職。内科専門医、血液専門医。趣味はサッカー観戦。



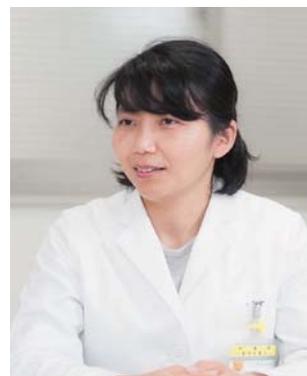
PROFILE

もりなつき◎今治市出身。2009年順正高等看護専門学校卒業後、当院勤務。日本看護協会神戸研修センターにて認定看護師教育課程修了、2015年がん化学療法看護認定看護師に認定。趣味は、映画鑑賞、写真、ヨガ。



PROFILE

すみかわさとみ◎松山市出身。2008年熊本大学卒業後、2010年熊本大学大学院博士前期課程修了。2010年より現職。日本医療薬学会がん専門薬剤師、日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師。趣味はバレーボール、スキューダイビング。



PROFILE

ながいよこ◎伊予市出身。1997年徳島文理大学卒業。2009年愛媛大学農学研究科(修士課程)卒業。1997年より当院に勤務し、2010年より現職。がん病態栄養専門管理栄養士、NST栄養専門療法士。趣味は音楽鑑賞、読書、アウトドア。

女性医師の活躍

研究を進め、社会に還元できる何かを発見したい

糖尿病内科・臨床検査医学 助教

高門 美沙季

私は、もともと早期診断・発症予防を目指す予防医学に興味があり、大学院に進学して糖尿病内科へと進みました。生活習慣が大きく影響する糖尿病は、前段階から医師が介入することで発症を抑えられる可能性があります。これまで、今年で10年目となる東温市民約2500名を対象にした疫学研究である「東温スタディ」を中心に、糖尿病発症前診断や新規検査方法などの研究に携わってきました。

現在、糖尿病内科には8人の医師が在籍しており、そのうち5人が女性です。3人が既婚者で、2人にはお子さんがいて、そのうち1人は外来のみを担当しています。当科は、男女の垣根がなく、教授や准教授も身近に感じられるファミリーのような雰囲気の中、研究や治療方針に加え、身近な事まで親身に相談できる環境が整っています。また、男女関係なく、国内外での学会発表の場が多く与えられており、教授から直接学会発表や論文の指導を受けられるので、キャリアアップにも繋がっています。妊娠・出産・育児などで仕事を休んだとしても、復帰しやすい環境が整っているので、同じ道を歩んでいる先輩医師がいるのは私も心強いです。また、疫学研究が中心ですのであまり時間の制約がなく、論文は自宅など病院外での執筆もできますし、診療だけでなく糖尿病の研究も続けていきたいと考えています。



PROFILE

たかかどみさき◎2014年愛媛大学医学部卒業。2015年同大学院医学系研究科博士課程入学。2016年愛媛大学医学部附属病院の糖尿病内科・臨床検査医学に入り、2017年より現職。同年、日本内科学会認定内科医を取得する。趣味は3歳から続けているピアノ。

FROM VIP DOCTOR

愛媛大学医学部附属病院に期待すること 『VIP DOCTOR に聞く』

魅力的な高度医療と先進的な研究から実力のある人材育成を

西予市立野村病院 院長 守田人司

大学病院には一般診療だけでなく、臨床・研究・教育の3分野での活躍を期待しています。臨床に関しては、大学病院だからこそできる、魅力のある高度医療の提供。研究では、現在、基礎研究と臨床研究の間を橋渡しする「橋渡し研究」に力を入れていると聞きました。とてもいいアイデアで、研究を深め、研究成果を世界に発信していただきたいです。そして、「愛あるブランド」のように、愛媛大学発信の新薬や治療法が世界に認められるようになればいいなと思っています。教育面に関しては、魅力ある高度な医療や夢のある研究が行われていくことで、おのずから実力のある医療人が育ちます。臨床・研究が充実していくことで、愛媛大学を卒業した医師が愛媛で活躍することにつながり、あるいは他大学から愛媛で研修を受けたいと思われる大学になると期待しています。

先日、「Dr. ミュウミュウの『次の方、どうぞ』」(FM 愛媛) を聞く機会がありました。すごくいい試みですね。愛媛県民にとって少し遠い存在に思える大学病院のさまざまな側面が紹介され、非常に親しみがもてる取り組みだと感じました。



PROFILE

もりたひとし◎1982年愛媛大学医学部卒業後、整形外科教室入局。1998年から現職。大学時代はサッカー部。趣味はテニス、サイクリング、スキーなど…アウトドア大好き人間!!

愛媛大学医学部附属病院 トピックス

お気軽にご相談ください

大規模災害訓練を実施



平成30年11月18日(日)、南海、東南海地震の発生を想定した大規模災害訓練を実施しました。訓練では、消火訓練や治療の優先順位を決定するトリアージ訓練などを行いました。また、災害対策本部の機能強化を目的に、各副病院長をそれぞれのセクションに配置し、責任者として院内における情報収集や本部長への報告、意志決定に至までのプロセスを確認しました。当院は訓練を通じ、災害拠点病院としての機能を高めています。

総務課 ☎089-960-5125

地域医療再生セミナーを開催



平成30年11月26日(月)、県内各地域の医療体制の現状と展望、地域医療における機能分担や医療連携等について検討する「第8回地域医療再生セミナー」を開催。セミナーには約110人の参加があり、本学の地域医療関係各講座等の取組を紹介したほか、「地域医療の充実・発展を目指して」と題した討論会を行いました。本セミナーを通じ、県内各地域での医師不足等の課題や解決に向けた取組事例を共有することができました。

地域医療支援センター ☎089-960-5990

被災地における社会福祉士の活動



7月27日～9月30日までの約2ヶ月間、「平成30年7月豪雨」により甚大な被害を受けた西予市に、社会福祉士(医療ソーシャルワーカー)を3人派遣しました。現地では、避難所や被災して自宅で生活する要援護者を訪問し、支援を要する方の相談への対応や生活課題に関するアセスメントや福祉トリアージなどを実施しました。当院は、今後起こりうる二次被害・三次被害へのサポートも継続して行うこととしています。

総合診療サポートセンター ☎089-960-5261

クリスマスコンサートを開催



平成30年12月13日(木)、愛媛県警察音楽隊によるクリスマスコンサートを開催し、患者さんやそのご家族に加え、地域の方々など多くの方が参加しました。はじめに、松山南警察署員から詐欺被害の現状に関する講話があり、最新の手法や対処法などの説明が行われました。続いて行われたコンサートでは、迫力のある力強い生演奏に加え、ユーモアを交えながらのプログラムが披露され、会場は興奮と笑顔に包まれていました。

医療サービス課 ☎089-960-5182

病院が プラネタリウムを実施



平成30年12月12日(水)小児科病棟においてプラネタリウムを上映し、入院中の患者さんやその保護者ら約30人が参加しました。上映会では、季節毎に夜空に見える星座や臨場感のある宇宙の姿が映し出され、更に、その星座や宇宙を構成する惑星の成り立ちなどの解説が一つの物語として加えられるなど、参加した子ども達は、院内での宇宙旅行を満喫している様子でした。

連携病院の皆様

平成31年3月2日(土) ANAクラウンプラザ ホテル松山にて 連携病院長会議を開催



第31回愛媛大学医学部連携病院長会議を上記日程にて開催します。詳細につきましては、当院ホームページをご覧ください。

<https://www.hsp.ehime-u.ac.jp/cooperation>

編集後記

あけましておめでとうございます。輝かしい新年をご家族みなさんと迎えられたこととお喜び申し上げます。

表紙は、恒例の仕事始め式での写真です。三浦病院長をはじめ、全職員が表紙のポーズのようにこころのこもった医療サービスを提供してゆく所存ですので、本年も当院を宜しくお願い致します。

厳寒の折、風邪などめされませぬようご自愛ください。

広報委員会委員長 高田清式

◎表紙：仕事始め式にて